

第41回 北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会

競技・審判上の注意（12月1日訂正）

1 全般的事項

- ① サービス高を1.15mに固定するルールを適用する。ポスト~~やプレイヤー~~の着衣にコート面から1.15m高さのところにテープ~~やリボン~~などでマークを付け、そのマークを基準にコート面から1.15mの高さのところに水平面をイメージし、判定をする。
- ② 試合進行は、時間短縮のため、試合が終わり次第試合のコールを行う。タイムテーブルで予定されている時間、コートの変更がありえるので放送に注意すること。
- ③ 試合が連続する場合は、前の試合終了後から10分間を確保して次の試合を行う。
- ④ 入場について、団体戦及び個人戦ともに、プログラムで上に記載されている方が主審の左側に入ること。（主審のスコアシートの記載に準ずる）
- ⑤ 競技者が競技中に着用するものは、大会運営規程第23条による。着衣は、白または令和4年度(公財)日本バドミントン協会審査合格品を着用すること。なお、ウェアからはみ出すタイプのインナー等についても審査合格品とする。
- ⑥ 着衣表示については（公財）日本バドミントン協会大会運営規程第24条による。但し、ウェアの表示、背面表示については、一部（公財）日本中学校体育連盟バドミントン競技部申し合わせ事項を加える。
- ⑦ 背面表示は、背面中央部にゼッケン(縦20cm 横30cmの大きさを基準とした白の布地で、文字の高さは各列6~10cm)を付け、四隅を留めることとする。ゼッケンの表示は、上段に学校名・下段に選手名姓を明記すること。背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと。
- ⑧ 入退場および挨拶、表彰の際は、ウェア(上衣)の裾を下衣に入れることとする。
- ⑨ 試合中の水分補給は、基本的に主審が汗ふきタイムを認めたときに、試合進行に影響が出ないように素早く済ませること。ただし、飲み物はスクイズボトルか水筒に入れること。
- ⑩ 今大会はカゴを用意しない。タオル、スクイズボトルか水筒、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド（主審側）に置くこと。交換用ラケット（ケースから出しておく）は、バッグの上に置いておくことを認める。また、その他の物はコーチ席で保管すること。氷のうは、保冷バッグに入れてコーチ席で保管すること。
- ⑪ 競技フロア内での水分補給以外の飲食は認めない。
- ⑫ ハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止とする。
- ⑬ 審判員の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレイヤー、団体戦の場合は当該プレイヤー、または監督が質問できる。（大会運営規程第6章第36条）
- ⑭ 原則として試合に負けたチームの監督、外部指導者(コーチ)、マネージャー(教員)が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席まで来ること。また、敗者選手には線審をお願いします。なお、得点係と、単の場合の線審(1名)は主管地区協会が担当する。
- ⑮ 会場内でのフラッシュやライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止する。
- ⑯ 別紙の「レフェリー（競技役員長）から競技審判上の確認と連絡」のページを熟読すること。

2 団体戦に関する事項

- ① 監督は当該学校の校長・教員であること。団体戦における外部指導者（コーチ）は、当該学校の校長が認めた者とする。マネージャーは当該学校の教員または生徒とする。
- ② 各コートの両エンドにコーチ席1席、ベンチ2席を設置する。ベンチに座りきれない選手は、観覧席で待機すること。試合に入る、挨拶時などに合わせて競技フロアにおりてくること。なお、ベンチに座ることができるのは、選手のみとし、監督、外部指導者（コーチ）またはマネージャーが座ることは認めない。
- ③ コーチ席に座れるのは、学校ごとに登録された（男女別）監督、外部指導者（コーチ）またはマネージャーのいずれか1名とし、必ずIDを付けることとする。インターバル時のコーチングは、そのうち2名以内とする。
- ④ コーチ席の椅子は、感染症防止対策としてチェンジエングごとに持ち歩くこと。

- ⑤ オーダー用紙の交換は、対戦相手が決まり次第、放送にて案内をする。
- ⑥ コールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶、マッチ前練習（2分間）、試合の順で行う。
- ⑦ マッチ前練習は初回戦のみ行う。（片方が初回戦の場合は、初回戦のチームのみ行う）トーナメント表の上のチームが挨拶をしたコート、他方のチームが残りのコートで練習をする。1コートで団体戦を行う場合は、トーナメント表の上のチームが先に2分間の練習を行い、続いて他方のチームが行う。いずれも主審の合図で2分間ずつ行うこととする。
- ⑧ 2コートを同時に使用しての並行試合を行う。マッチ前練習後、第1複と単の試合を行う。なお、先に終わったコートで第2複の試合を行う。試合の勝敗は第1複・単・第2複のうち、いずれか2マッチを先取したチームの勝ちとする。進行の関係で3コート同時に試合を行うこともある。この場合は事前に両校の監督に確認し、実施する。また、どちらかのチームが初戦の場合は第2複まで行い、それ以降は勝敗決定（2マッチ先取）後、打ち切る。
- ⑨ 団体戦・個人戦ともに、マッチ前練習の練習球は、各校で準備すること。

3 個人戦に関する事項

- ① コーチ席に座れるのは、IDが発行されている者（監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、保護者並びに団体戦登録選手。いずれも協会登録をされている者とする）のうち1名以内(男女別)とし、必ずIDを身に付ける。また、インターバル時のコーチングは、そのうち2名以内とする。
- ② IDが発行されている者であれば、他校の選手のコーチ席に入ることを、今大会のみの特例として認める。ただし、団体戦登録選手は、自校の選手の試合のみとする。
- ③ 個人戦のマッチ前練習は原則として試合がコールされてから主審が来るまでの間とし、単の場合は対戦相手と、複はパートナー同士での練習とする。